

普及成果・主要普及成果の普及状況

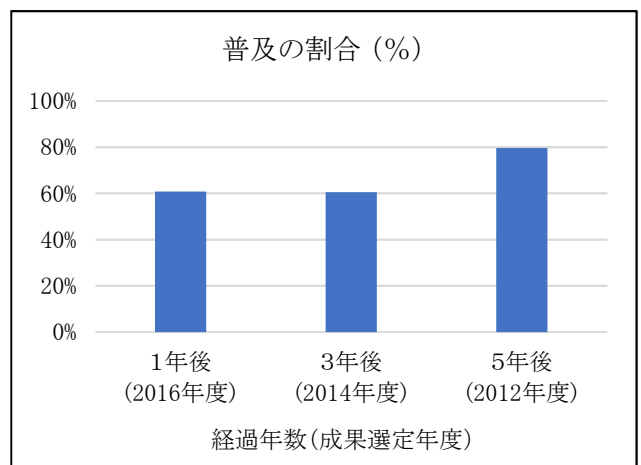
農研機構は2018年度に研究成果に関する調査を実施し、公表から1年、3年及び5年を経過した普及成果・主要普及成果の普及状況を把握しました。

その結果、公表から1年後となる成果(2016年度選定)の普及の割合は61%、3年後となる成果(2014年度選定)の普及の割合は60%、5年後となる成果(2012年度選定)の普及の割合は80%でした(表1、図1)。

表1 過年度の普及成果・主要普及成果の普及状況

	経過年数 (成果選定年度)		
	1年後 (2016 年度)	3年後 (2014 年度)	5年後 (2012 年度)
普及成果・主要普及成果 の総数	61	86	83
普及が図られた普及成果・ 主要普及成果の数	37	52	66
普及の割合 (%)	61%	60%	80%

図1 過年度の普及成果・主要普及成果の普及状況



また、2014年度選定成果と2012年度選定成果の普及状況について、2016年度に実施した調査結果と比較すると、時間の経過とともに普及が進展していることが分かりました(表2、図2)。

表2 成果の普及状況の経年変化

	成果選定年度		
	2016年度	2014年度	2012年度
2016年度調査	—	58%	76%
2018年度調査	61%	60%	80%

図2 成果の普及状況の経年変化

